

【十二月の言葉（令和二年）】

現在が救われると

過去も未来も救われる

病院やホテルには「四十四号室」がなかったり、何かと世間では敬遠されている可哀想な数字「四」ですが、発想を転換すれば「四四」＝「し(四)あわせ(合わせ)」＝「幸せ」とも言えます。見方が変われば心が変わり、心が変われば生き方も変わるものです。

私たちの日常では、「偶然」「運命」「奇蹟」という言葉で、世の中の事象や現象を説明しがちですが、起こるべき原因や条件もなく結果が生じるということはありません。あらゆる物事は、しかるべき因縁によって必然的に起こるのです。目の前の事象や現象が、偶然や運命や奇蹟のように思えてしまうのは、その因果関係が当事者に見えていないからに過ぎません。

不都合な結果をただ単に「不運」という言葉で済ませてしまう人も多くいるようです。「運が悪かった」「ツイてなかった」「運命だから仕方がない」……。

少し思考を変えてみませんか。

人生のやり直しは不可能ですが、見直しは可能です。「いま」「ここ」にある現実や自己のありのままの姿を受けとめると、これまでの失敗や過ちさえも“無駄なことなど何一つなかった”と過去の意味も変わってきます。そして、そこから未来へ向けて、希望の一步を歩み出せるのではないでしょうか。